



ビジネス感覚を身につけ、厳しい環境を乗り越えていきたい

酪農経営 城島町 今村 浩星さん (34歳)

就農のきっかけ

「継いだのは、まあ、成り行きで。」と話す今村浩星さん。しかし、小さい頃から家業の牧場を手伝っていたそうです。「有限会社 今村ふれあい牧場」は、浩星さんで3代目。1ヘクタールの敷地に乳牛を270頭飼育し、年間の生乳生産量は1,800トンを誇っています。浩星さんは、平成15年に、3年間の社会人経験を経て入社し、今では5名の従業員を率いる社長に就任しています。

生乳生産とは

早朝と夕方の2回、毎日搾乳し、餌や牛舎の管理も生乳の品質に直結するため、とても神経を使います。また、昨今の飼料代・燃料代の高騰は経営に大きく影響します。しかし、「酪農業の魅力の一つは、設備投資などの費用はかかるが、収益性が高いところですね。」という浩星さん。経営者として、為替や株価、海外の商品先物市場のチェックも欠かせません。今後は、コストの上昇を抑える努力を続けながら、自家育成で保有頭数を増やし、さらに収益性を上げていきたいと将来を展望しています。

いつもおいしい牛乳を

「今村ふれあい牧場」

の牛乳は、県酪農業協同組合などを経て、九州各県の乳業メーカーへ運ばれ商品となります。牛乳の消費量は伸びておらず、環境は厳しいですが、「おいしくて安全安心な牛乳を毎日搾っていますので、これからも牛乳を飲んで下さいね。」と笑顔で語る浩星さんの酪農への思いが伝わってきました。

